

スポット ニュース

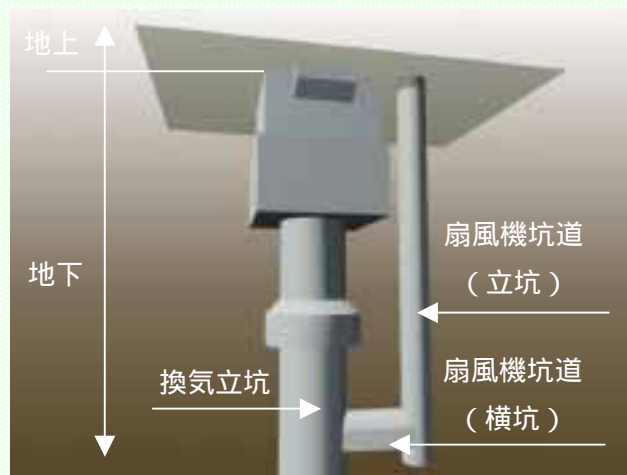
研究坑道の坑口部分の工事、進む

瑞浪超深地層研究所では、研究坑道の基礎工事が進み、来年1月より換気立坑（現在基礎工事中）の付属設備として扇風機坑道（イメージ図参照）の掘削作業を行います。

この扇風機坑道は、坑道内の換気を行うための排気口として設置します。なお、この坑道は換気立坑の横に掘削し、直径約2m、深さ約30mを予定しています。工事期間は平成16年5月頃までを予定しています。



坑口部分の基礎工事の様子



扇風機坑道のイメージ図

今月の主な作業内容

【瑞浪超深地層研究所】

- 深いボーリング孔の掘削作業および調査（12月17日現在）
（MIZ-1号孔：掘削長502m）
- 主立坑（直径約6.5m）と換気立坑（直径約4.5m）の坑口部分の基礎工事
- 建設管理棟（仮称）の建設工事
- 構内緑化工事
- 研究所用地の境界地点における騒音・振動調査
- 浅い4本のボーリング孔（MSB-1,2,3,4号孔）での水圧などの長期観測
- 狭間川における流量観測および用地周辺井戸での水位観測

【正馬様用地】

- 既存のボーリング孔での水圧などの長期観測

地層研ニュースに関するご質問または、瑞浪超深地層研究所や正馬様用地の見学をご希望の方は、下記までご連絡下さい。

：0120-333-112 東濃地科学センター 地域交流課（青木,茅吹,福島）

文化・歴史・自然を楽しむin東濃

【多治見国長邸跡】（県指定史跡）

住所：多治見市新町

多治見国長は、後醍醐（ごだいご）天皇と鎌倉幕府の討伐のため京都に上がりましたが、この討伐の動きを土岐頼員（ときよりかず）が六波羅探題（ろくはらたんだい）に漏らしたため、1324年9月19日、六波羅探題の軍が多治見国長の宿舎を襲い多治見一族は自害しました。この戦いを正中（しょうちゅう）の変といひます。

なお、現在は敷地面積の約36㎡のみ存在しています。

参照：『リチャード平成の風土記』岐阜



多治見国長邸跡の様子

用語あれこれ

【トルコ石とは？】

12月の誕生石でもあるトルコ石は、岩に含まれる銅やアルミニウム、リンなどの成分が、風化とともに溶け、水とともにさらに深い岩の割れ目に染み込んでいきます。

トルコ石には青、青緑、緑の石があり、鉄や銅の量によって、青色から緑色まで変化します。また、褐色や黒が網目状に入ったものもあります。

核燃料サイクル開発機構ではこのようなことも行っています

サイクル機構では、これまでに取得した特許約1,500件を地元地域の企業に活用していただき、その企業との共同研究開発を実施することにより、新製品の開発支援を行っています。この特許の中には、原子力関連の産業のみならず電気、機械、化学、金属、レーザーなど他の産業にも活用できるものもあります。

なお、共同研究開発の募集案内については来月号（1月号）に行う予定です。

来月の主な作業予定(1月)

【瑞浪超深地層研究所】

- 深いボーリング孔の掘削作業および調査（MIZ-1号孔）
- 主立坑（直径約6.5m）の坑口部分の基礎工事と換気立坑付属の扇風機坑道の掘削工事
- 建設管理棟（仮称）の建設工事
- 研究所用地の境界地点における騒音・振動調査
- 浅い4本のボーリング孔（MSB-1,2,3,4号孔）での水圧などの長期観測
- 狭間川における流量観測および用地周辺井戸での水位観測

【正馬様用地】

- 既存のボーリング孔での水圧などの長期観測